

三月の空の下

小川未明

青空文庫

花はなの咲さく前まえには、とかく、寒さむかつたり、暖あたたかかつたりして天てんこ候うの定さだまらぬものです。

その日ひも暮くれ方がたまで穏おだやかだつたのが夜よるに入はいると、急きゆうに風かぜが出ではじめました。

ちようど、悪寒おかんに襲おそわれた患かんじや者やのように、常磐木ときわぎは、その黒くろい姿すがたを暗やみの中なかで、しきりに身震みふるいしていました。

A 院長エイいんちようは、居間いまで、これから一杯ぼいやろうと思おもっていたので、そこへはわかるような小ちいさい聲あしおと音がして、取とり次つぎの女じよち中ゆうけんかんごふ兼はい看護婦はいが入はいつてきて、

「患かんじや者やがみえましたが。」と、告つげました。

「だれだ？ 初診のものか。」と、院長は、目を光らしました。

「はい、はじめての方で、よほどお悪いようなのでございます。」
まだ年の若い彼女は、こんなものを院長に取り次いだのは悪いとは思ったけれど、それよりも、目にうつる哀れな男の姿のほうが、いつそう強く心を動かしたのです。けれど、院長は容易に座を立ち上がろうとしなかった。

「そんなに悪いのに、ここへやってきたのか。」

「はい。」

院長は、きたときいては、捨ててもおけなかつたのでした。どんな身分の患者であつて、またどこが悪いのか、それを知り

たいという職業意識も起こつて、

「いま、ゆくから。」と、静かに、答えて、苦い顔つきをしながら、居間を出ました。

控え室をのぞくと、乞食かと思われたようなよぼよぼの老人が、ふろしき包みをわきに置いてうずくまっていました。

院長は、その老人と、取り次いだ看護婦とを鋭く一瞥してからいかに、こんなものを……ばかなやつだといわぬばかりに、

「みてもらいたいというのは、この方かね。」と、ききました。

「さよう、私でございます。遠いところ、やっと歩いてまいりました。」と、老人はとぎれとぎれに答えました。

「遠いところ？　なんで、もつと近所の医者にかからなかったんだね。」

「だめです、いいお医者さんがありません。」と、老人は頭を左右に揺すりました。

（そうだろうとも、だれが、こんなものを見てやるものだ。このばかな女でもなければ、一目見て追い帰すにちがいない。いったい、医者というものをなんと心得ているのだろう。）

「おじいさん、せっかくだが、私は、これから急病人の迎えを受けているので、出かけなければならぬのだ。だからすぐみてあげることができない。どうか、よそへいつてもらいたい。」

院長は、そばに、まごまごしている、看護婦の顔をにらん

で、奥へさつさとはいつてしまいました。

「じゃ、どうしてもみてくださらんのか。」と、老人は、つぶやきました。

「お気の毒ですけれど、先生はたいへんお忙しいので、みられんとおっしゃいますから、よそのお医者さまへいつてくださいますし。」と、看護婦は、そういいました。

「ははあ、よそのものはみても、私をばみられないとおっしゃるのだな。どうせ、この老耄はくたばるのだからいいけれど、そうした道理というものはないはずじゃ。もう私は歩けないが、どこか近所に、お医者さまはありますか。」と、老人は、やっと小さな荷物をせおつてから、ききました。

「じき、すこしゆくとにぎやかな町になります。そこには、幾軒もお医者さまがあります。」

少女は、暗い外の方を指して、町へ出る方向をおじいさんに教えました。ところどころに点いている街燈の光が見えるだけで、あとは風の音が聞こえるばかりでした。

ちょうど、その時分、B医師は、暗い路を考えながら下を向いて歩いてきました。彼は、いま往診した、哀れな子供のことに ついて、さまざまのことを思っていたのです。

その家は貧しくて、なぜから肺炎を併発したのに手当ても十分することができなかつた。小さな火鉢にわずかばかりの炭を たいたのでは、湯気を立てることすら不十分で、もとより室を暖

めるだけの力はなかつた。しかし、炭をたくさん買うだけの資しりよ
 力のないものはどうしたらいいか、それよりしかたはないのだ。
 近所に、宏荘な住宅はそびえている。それらの内部には、
 独立した子供部屋があり、またどの室にも暖房装置は行き届
 いているであろう。そこに生まれ育つた子供と、あの貧しい家いえに
 病んでねている子供とどこに、かわいらしい子供ということにか変
 わりがあるうか。しかし、その境遇はこうも異なっているの
 だ。私は、あの哀れな子供を助けなければならぬ。
 B医師は、夕方、自分を呼びにきた、子供の母親の、おど
 おどした目つきと、心配そうな青ざめた顔とを思いあわせたの
 です。

「あんなになるまで、医者にかけないという法はないのだが、もう手後れておくであるかもしれない。」

悲ひそ壮そうな気持きもちで、門もんを入はいろうとすると、内ない部ぶからがやがや人ひと声こゑがきこえました。

一足前ひとあしまえ、近所きんじよの人ひとたちが、倒たおれている老人ろうじんを連つれてきたのです。

B 医師いしは、すぐちゆうに老人ろうじんに注ちゆう射うしやを打うちました。

「気きがついた。おじいさん泣なかんでいい。ここは医い者しやの家いえだから、安あん心しんするがいい。」と、顔かおをつけるようにして、B 医師いしは、燈と火うかの消きえかかろうとするような老人ろうじんをなぐさめました。

「あんたは、お医い者しやさまか。」と、老ろう人じんは、かすかに目めを開ひらい

てB医師を見て、たずねました。

「そうです、だから、安心なさるがいい。」と、答えてB医師は、自ら老人を抱えて、診察室のベッドの上に横たえて、やわらかなふとんをかけてやりました。

「先生、この人は、助かりましょうか。」と、老人をつれてきた近所の人たちが、ききました。

「わかりません。なにしろ極度に疲れていますから。私は、できるだけの手当てをいたしますが……。」と、B医師は答えました。

その夜、老人は、最後にしんせつな介抱を受けながら死んでゆきました。すこしばかり前、かたわらにあつた小さな荷物を

指しながら、訴えるように、うなずいて見せたのでした。

夜明け方になって、ついに雨となつたのであります。B 医師は、

老人が身から離さなかつた荷物を開けてみました。紙箱の中

には、すでに芽を出しかけた、いくつかのすいせんの球根が

はいつていました。また、古びた貯金帳といつしよに、なに

か書いたものがほかから出てきました。それを見ると、

「私は、親もなければ、兄弟もない一人ぼっちで暮らしてき

た。私の一生は、けつして楽なものではなかつた。人のやさしみ

というものをしみじみと味わわなかつた私は、せめて死の際だけ

なりと、医者にかかつてしんせつにしてもらいたいと思つて、苦

しい中から、これだけの貯金をしたのである。どこで私は死ぬ

かshれないが、おそらく、しんせつな医者いしやを探さがしあてて、その人ひとの手てにかかつて死しにたいと思おもっている。この金かねで死後しごの始末しまつをし
てもらい、残りのこは、どうか自分じぶんと同じおなような、不幸ふこうな孤独こどくな人ひと
のために費つかつてもらいたい。」

こういふようなことが書かいてありました。終しゆう生せい独身どくしんで過す
ごした、B医師びいしはバラツク式しきであつたが、有志ゆうしの助じ力りよくによつ
て、慈善病院じぜんびやういんを建たてたのは、それから以後いごのことです。
もちろん、老人ろうじんの志こころざしも無むとならなかつたばかりか、B医師びいしは、
老人ろうじんの好すきだつたらしいすいせんを病院びやういんの庭にわに植うえたので
ありました。

しかし、A病院えいびやういんは、いまも繁栄はんえいしているけれど、慈善じぜん善び

病院やういんは、Bビー医師いしの死し後ご、これを継つぐ人ひとがなかつたために滅ほろびて
 しまいました。その建た物ものも、いつしか取とり払はられて、跡あとは空あき
 地ちとなつてしまつたけれど、毎まい年ねん三が月がつになると、すいせんの根ね
 だけひらは残のこつていて、青あお空ぞらの下もとに、黄き色いろの炎ほのおの燃もえるよはなうな花はなを
 開ひらきました。そして、この人ひとの心しん臓ぞうに染そまるよはなうな花はなの香こう気きは、
 またなんともいかなえぬ悲かなしみふくを含ふくんでいるのです。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

初出：「民政」

1934（昭和9）年3月

※表題は底本では、「三一月《がつ》の空《そら》の下《した》」
となっております。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年5月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

三月の空の下

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>